

高品質がテーマです。

ICOM

## 取扱説明書

VHF無線電話装置

**IC-VH37CTM**

**IC-VH37MFT**

UHF無線電話装置

**IC-UH37CTM**

**IC-UH37MFT**

この無線機を使用するためには、総務省の無線局の免許が必要です。

免許を受けずに使用すると、電波法第110条の規定により処罰されます。

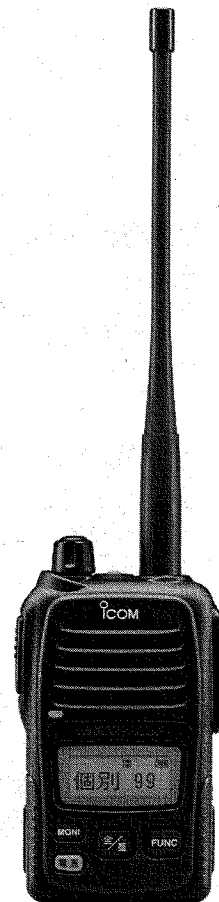
A-6536SY-1J-④  
Printed in Japan  
© 2006-2008 Icom Inc.

この印刷物は環境にやさしい再生紙と植物性インクを使用しています。

アイコム株式会社

547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32

Icom Inc.



## はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

本製品は、技術基準適合証明で認定された国内業務用無線電話装置です。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、大切に保管してください。

## 取扱説明書の内容について

この取扱説明書に記載の操作や機能は、販売店であらかじめ設定をご依頼いただくことにより使用できる機能も含まれています。一般的なご使用を想定した内容にしていますので、ご使用になる機能や操作について詳しくは、販売店におたずねください。

## 標準構成品 〈充電器(※P25～28)は、別売品です。〉

本製品には、下記のことを同梱しています。

- 無線機本体 ..... 1
- アンテナ ..... 1
- ハンドストラップ ..... 1
- 取扱説明書(本書)、保証書

## 登録商標/著作権について

アイコム株式会社、アイコム、Icom, Inc.、icom、ポケットビーブは、アイコム株式会社の登録商標です。  
その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

本製品のフォントは、リョービのフォントを採用しています。

## はじめに

## 本製品の概要について

◎本製品は電波法に基づいて、特定無線設備の工事設計についての認証(技術基準適合証明)を取得した製品です。

◎IP57[(防塵形相当)\*<sup>1</sup>と(防浸形保証)\*<sup>2</sup>]の性能に対応できるように設計されています。(バッテリーパック、アンテナ装着時に限る)

◎本製品は携帯用として、設計されたプレストーク方式の複数波業務用無線電話装置です。

簡易業務用として、

IC-VH37CTMは、9チャンネルに対応します。

IC-UH37CTMは、35チャンネルに対応します。

一般業務用として、

IC-VH37MFT/IC-UH37MFTは、35チャンネルに対応します。

◎チャンネル番号の代わりとして、漢字、英数字、記号、外字を使用した半角8(全角4)文字で表示できます。

◎緊急呼び出し機能に対応しています。

★1.バッテリーパックを正しく装着した状態で、タルク粉を1m<sup>2</sup>あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取り出して、無線機として機能することです。

★2.バッテリーパックを正しく装着した状態で水深1mの静水(常温の水道水)に静かに沈め、30分間放置したのちに取り出して、無線機として機能することです。



### 使用後はリサイクルへ

この製品は、充電式電池使用機器です。  
希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

## 防水性能について

バッテリーバック(BP-220L/220N/BP-233/BP-246)、防水形スピーカーマイク(HM-130/HM-172)は、本製品に装着することでJIS保護等級7(防浸形)保証の性能がありますが、完全防水構造ではありません。

下記のような環境で使用すると防水性能を保証できませんのでご注意ください。

- 水深1m以上、または30分間以上水中に放置したとき
- 雨の中や、水滴が付着、または濡れた手でバッテリーバックやアンテナ、防水形スピーカーマイクを付けたり、はずしたりしたとき
- 海水や砂、泥などが無線機に付着したまま放置したとき
- 落下等外的衝撃により、樹脂変形、歪み、ひび割れ等が発生した場合や薬品の付着により筐体、ゴムパッキンに劣化が生じたとき
- 長時間、高い水圧をかけたとき
- 蛇口からの水や湯を直接当てたとき
- バッテリーバックを無線機本体に取り付けずに使用したり、下記に指定する以外の別売品を使用したとき
- 無線機本体とバッテリーバック端子間の腐食による故障、または損傷があるとき
- 使用温度範囲からはずれた温度で使用したとき
- 薬品等の蒸気が発散、または薬品にふれるところに放置したとき

## ■別売品の防水性能について

バッテリーバック(BP-220L/220N/BP-233/BP-246)、防水形スピーカーマイク(HM-130/HM-172)、短縮アンテナ(FA-S73U)を無線機本体に装着することで、JIS保護等級7(防浸形)保証の性能になります。

※接話タイピン型マイクロホン(HM-163)は、JIS保護等級7(防浸形)保証の性能がありますが、マイクロホン部は、防水構造ではありません。

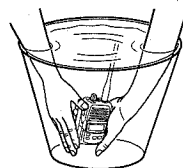
※上記以外の別売品(※6章)については、防水性能を保証していませんので、ご注意ください。

## 取り扱い上のご注意

- アンテナを持って製品を持ち運んだり、振り回したりしないでください。
- 本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。  
結露した場合は、水分をふき取ってからご使用ください。
- 雨の中や、水滴が付着、または濡れた手のままでバッテリーバックや防水形スピーカーマイク、アンテナを付けたり、はずしたりしないでください。
- 水や湯を水道の蛇口から直接当てないでください。
- 無線機本体やバッテリーバックと充電器の各端子(充電端子および電源ジャック)、アルカリ電池ケースの電池端子にゴミやホコリが付着すると、正常に使用できないことがありますので、ときどきお手入れしてください。
- 磁気カードを無線機に近づけないでください。  
磁気カードの内容が消去されることがあります。
- バッテリーバックをお買い上げいただいたときや、約2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してください。
- 本製品の故障、誤動作、不具合、停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

## 海水や砂、泥などが付着したときは？

海水や砂、泥などが無線機に付着したときは、真水で洗い流してください。  
このとき、バッテリーバックは、無線機本体から絶対にはずさないでください。  
洗い流したあとは、水分をふき取り、十分に乾燥させてからご使用ください。



## 電波法上のご注意

◎本製品は電波法に基づいて、特定無線設備の工事設計についての認証(技術基準適合証明)を取得した業務用無線電話装置です。

これは簡単な手続きにより無線送受信機を使っていただくために定められたもので、無線機本体を容易に分解できない構造になっています。

ご自分で分解や改造をしないでください。

◎免許状に記載されている範囲内で通信してください。

◎特に他局の通信を妨害したり、通話の内容を他に漏らし、これを窃用することは、かたく禁じられています。

◎免許の有効期限は、免許を取得した日から5年間です。

再免許の申請は、免許の切れる6ヵ月前から3ヵ月前の間に手続きをしてください。

◎使用できるのは、日本国内に限られています。

|                     |     |
|---------------------|-----|
| はじめに                | i   |
| もくじ                 | vi  |
| 安全上のご注意(必ずお読みください。) | ix  |
| ■無線機本体について          | ix  |
| ■バッテリーパックについて(別売品)  | xii |
| ■充電器について(別売品)       | xvi |

## 1.ご使用前の準備 1

|                            |   |
|----------------------------|---|
| ■付属品の取り付け【アンテナ】、【ハンドストラップ】 | 1 |
| ■ベルトクリップの取り付け(別売品)         | 1 |
| ■バッテリーパックの取り付け(別売品)        | 2 |

## 2.各部の名称と機能 3

|      |   |
|------|---|
| ■前面部 | 3 |
| ■表示部 | 5 |

## 3.交信のしかた 6

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 1 電源を入れる                       | 6  |
| 2 音量を調整する                      | 6  |
| 3 相手局を選択する                     | 7  |
| Step1.通話チャンネル番号の選択             | 7  |
| Step2.「全体」/「基地局番号」/「個別番号」表示の選択 | 9  |
| Step3.「個別番号」の選択                | 10 |
| 4 呼び出しをする                      | 11 |
| ■アンサーバック機能                     | 11 |
| 5 呼び出しを受ける                     | 12 |
| ■ポケットビーブ                       | 12 |
| ■着信表示                          | 12 |

### 3. 交信のしかた(つづき)

|             |    |
|-------------|----|
| 6 交信する      | 13 |
| ■ 正しい通話方法   | 13 |
| ■ 交信時のアドバイス | 14 |

### 4. そのほかの機能について

|                      |    |
|----------------------|----|
| ■ ロック機能              | 15 |
| ■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー) | 15 |

### 5. セットモードについて

|                   |    |
|-------------------|----|
| ■ [セットモード]に移行するには | 17 |
| ■ 設定項目[①～⑤]について   | 18 |

### 6. 別売品とその使いかた

|                            |    |
|----------------------------|----|
| ■ 別売品一覧表                   | 20 |
| ■ 安全な充電のために                | 22 |
| ■ 電池の残量表示について              | 22 |
| ■ 電池の残量警告音について             | 22 |
| ■ バッテリーパックの定格について(別売品)     | 23 |
| ■ 急速充電器の定格について(別売品)        | 23 |
| ■ 正しい充電のために                | 24 |
| ■ BC-161(卓上急速充電器)：充電のしかた   | 25 |
| ■ BC-161の連結充電について          | 26 |
| ■ BC-161のヒューズ交換について        | 27 |
| ■ BC-121NA(6連急速充電器)：充電のしかた | 28 |
| ■ MB-86(回転式ベルトクリップ)        | 29 |
| ■ MB-97(ベルトクリップ)           | 31 |
| ■ 別売品を接続するには               | 32 |

### 6. 別売品とその使いかた(つづき)

|                                                              |    |
|--------------------------------------------------------------|----|
| ■ HM-130/HM-172(防水形スピーカーマイク)                                 | 32 |
| ■ EM-80(スピーカーマイク)                                            | 32 |
| ■ HM-139/HM-139S(小型スピーカーマイク)                                 | 33 |
| ■ AD-52(イヤホンジャックアダプター)                                       | 33 |
| ■ SP-16(耳掛け型イヤホン)                                            | 34 |
| ■ HM-109/HM-163(接話タイピン型マイクロホン)                               | 34 |
| ■ FA-S73U(IC-UH37CTM用防水形短縮アンテナ)                              | 34 |
| ■ OPC-636/OPC-637<br>(マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル)                      | 35 |
| ■ HS-86/HS-92(ヘルメット取り付け型ヘッドセット)と<br>EH-11(イヤークラム型スピーカー)の組み立て | 36 |
| ■ HS-88(ヘッドセット)                                              | 37 |
| ■ HM-104/HM-104A<br>(単一指向性/無指向性タイピン型マイクロホン)                  | 37 |
| ■ EH-12(ヘルメット取り付け型スピーカー)                                     | 38 |
| ■ EH-13(耳掛け型イヤホン)                                            | 38 |
| ■ EH-14(オープンエア型イヤホン)                                         | 39 |
| ■ EH-15(イヤホン)                                                | 39 |
| ■ MB-57L(ショルダーストラップ)の取り付け                                    | 40 |
| ■ MB-80(ショルダーストラップ)の取り付け                                     | 40 |
| ■ LC-153/LC-154(ハードケースS/ハードケースL)                             | 41 |
| ■ LC-164/LC-166(ハードケースS/ハードケースL)                             | 41 |
| ■ HM-147(骨伝導マイク)                                             | 42 |

### 7. 保守について

|                      |    |
|----------------------|----|
| ■ 日常の保守と点検について       | 43 |
| ■ 防水性能維持の定期点検と保守について | 44 |
| ■ 故障かな?と思ったら         | 44 |
| ■ 故障のときは             | 46 |

## 安全上のご注意

安全にお使いいただくために、  
ご使用の前に、必ずお読みください。

- ▶ 使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を示しています。
- ▶ 次の「△危険」「△警告」「△注意」の内容をよく理解してから本文をお読みください。
- ▶ お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

### ■ 無線機本体について

#### △ 危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- 引火性ガスの発生する場所では、絶対に使用しないでください。  
引火、火災、爆発の原因になります。

## 安全上のご注意

#### △ 警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- 民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。  
交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。  
運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。
- 電子機器の近く(特に医療機器のある病院内)では絶対に使用しないでください。  
電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。
- 製品の分解や改造は、絶対にしないでください。また、ご自分で修理しないでください。  
火災、感電、故障の原因になります。
- アンテナを接続しないで送信したり、送信しながらアンテナを接続しないでください。  
感電、故障の原因になります。
- アンテナやハンドストラップ、ショルダーストラップの端を持って本体を振り回したり、投げたりしないでください。  
本人や他人に当たって、けがや故障、破損の原因になります。
- 大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。  
大きな音を連続して聞くと、聴力障害の原因になります。
- 万一煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。  
すぐに電源を切り、無線機本体からバッテリーパックを取りはずしてください。  
煙が出なくなるのを確認し、販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

## 安全上のご注意

### ■無線機本体について(つづき)

#### △ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- アンテナを折り曲げたり、ねじったりしないでください。  
変形や破損の原因になることがあります。
- 針金などの細い棒でマイクロホン部やスピーカー部の穴に触れないでください。  
故障の原因になることがあります。
- 無線機をぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。  
落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因となることがあります。
- 直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所に置かないでください。  
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- 指定以外の別売品を使用しないでください。  
故障の原因になることがあります。
- テレビやラジオの近くで送信しないでください。  
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。
- 10℃～+60℃以外の環境では使用しないでください。  
故障の原因になることがあります。
- 清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対に使用しないでください。  
ケースが変質したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。  
普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

## 安全上のご注意

### ■バッテリーパックについて(別売品)

#### △ 危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- ◎火の中に投入したり、加熱しないでください。  
バッテリーパック内部のガスに引火して、破裂や火災などの原因になります。
- ◎コンクリートなどの堅い床に落としたりするなど、強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。  
外観上、ひび割れや破損がない場合でも、内部で破損している場合があり、その状態で使用をつづけると、破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。
- ◎火やストーブのそば、車内や炎天下など、高温になる場所での充電はしないでください。  
保護装置が動作して、充電できなくなったり、保護装置を破損して、破裂、発煙、発火や火災、やけどの原因になります。
- ◎火やストーブのそば、車内や炎天下など、+60℃を超える環境で放置、または使用しないでください。  
バッテリーパックの性能や寿命が低下したり、破裂、発煙、発火や火災、液もれ、やけどの原因になります。

- ◆バッテリーパックをご使用の際に、異常と思われたときは、使用しないで買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

## 安全上のご注意

### ■ バッテリーパックについて(つづき)

#### ⚠ 危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- ◎下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液もれ、感電、やけどの原因になります。
- バッテリーパックの端子にハンダ付けをしないでください。
- バッテリーパックの端子間を針金などの金属類で接続しないでください。
- ネックレスなどの金属類や導電性のあるものをバッテリーパックの上に放置したり、バッテリーパックといっしょに持ち運んだりしないでください。
- バッテリーパックは、単体で水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
- 弊社指定の充電器での充電、および無線機の使用について厳しい検査をしていますので、弊社指定以外の無線機や充電器、およびそれ以外の用途には使用しないでください。
- バッテリーパックから漏れ出した液が目に入ったときは、こすらないでください。  
失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- バッテリーパックは、分解や改造をしないでください。

## 安全上のご注意

#### ⚠ 警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- ◎使用中や充電中、または保管中に、いつもより発熱するなど異常と感じたときは、使用を中止してください。  
使用をつけると、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれ、故障の原因になります。
- ◎赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。  
感電やけがの原因になります。
- ◎電子レンジや高圧釜などに入れたり、電磁調理器の上に置かないでください。  
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。
- ◎指定の充電時間以上、充電しないでください。  
満充電後、すぐに再充電を繰り返すと、過充電になり、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になります。
- ◎指定の充電時間を超えても充電を完了しないときは、ただちに充電を中止してください。  
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。
- ◎バッテリーパックから漏れだした液が皮膚や衣服に付着したときは、放置しないでください。  
皮膚に障害を与えるおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- ◎バッテリーパックは、ぬれた状態で弊社指定の無線機や充電器に装着しないでください。  
無線機や充電器の電源端子接点部に水や海水が付着して、故障の原因になります。
- ◎テープを巻きつけたり、加工したりしないでください。  
バッテリーパック内部からガスが発生することがあり、破裂、発熱、液もれの原因になります。



## 安全上のご注意

### ■ バッテリーパックについて(つづき)

#### ⚠ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- ◎下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。
- バッテリーパックを満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。  
長期間バッテリーパックを保管する場合は、満充電のあと、バッテリー残量の中レベルを表示するまで使用して、無線機から取りはずした状態で保管してください。
  - 以下の温度範囲以外の環境で充電しないでください。  
BC-161(卓上急速充電器) : 0℃～+40℃  
BC-121NA(6連急速充電器) : +10℃～+40℃
  - 10℃～+60℃以外の環境で使用しないでください。
  - 寒い戸外や冷えたままで充電しないでください。
  - 無線機を使用しないときは、必ず電源スイッチを切ってください。
  - 長期(約1年)間使用しないときは、バッテリーパックを無線機から取りはずして、-20℃～+25℃の風通しのよい乾いた環境に保管してください。  
3ヶ月間ほど使用しないときは、-20℃～+35℃の湿気の少ない場所に保管してください。  
1ヶ月間ほど使用しないときは、-20℃～+40℃の湿気の少ない場所に保管してください。
- ◎清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対に使用しないでください。  
ケースが変質したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。  
普段は、乾いたやわらかい布でふいてください。

## 安全上のご注意

### ■ 充電器について(別売品)

#### ⚠ 危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- ◎下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、けが、故障の原因になります。
- ACアダプターは、充電器に付属する以外のものを使用しないでください。
  - 弊社指定以外のバッテリーパックは、使用しないでください。  
BP-220L、220N、BP-233、BP-246専用の充電器です。
  - 分解や改造をしないでください。  
また、ご自分で修理しないでください。

## 安全上のご注意

### ■ 充電器について(別売品)つづき

#### ⚠ 警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

- 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
- BC-161は、5台以上連結して充電しないでください。連結して充電できるのは、最大4台までです。
- 充電器に水を入れたり、ぬらさないでください。また、水にぬれたときは、使用しないでください。
- ぬれた手で電源プラグや機器に絶対触れないでください。
- 電源コードや接続ケーブルの上に乗ったり、重い物を載せたりしないでください。
- 電源コードや接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
- 充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。
- 電源コードや接続ケーブルが傷ついたり、ACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。
- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。すぐにACコンセントから電源コードを抜き、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げ販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

## 安全上のご注意

#### ⚠ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、火災、液もれ、発熱、感電、故障の原因になることがあります。

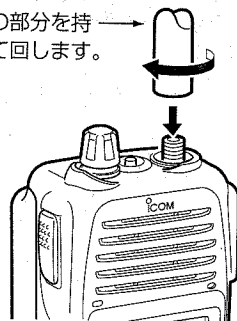
- 以下の温度範囲以外の環境で充電しないでください。  
BC-161(卓上急速充電器) : 0℃～+40℃  
BC-121NA(6連急速充電器) : +10℃～+40℃
- 充電が完了したバッテリーパックを再充電しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。
- 電源コードを抜き差しするときは、電源コードを引っ張らないでください。
- 充電後や充電しないときは、ACコンセントから電源コードを抜いてください。
- ◎直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。  
充電器の火災、故障、変形、変色、またはバッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になることがあります。
- ◎充電器を保管するときは、-10℃～+70℃で湿気の少ない場所に保管してください。  
サビの発生、性能の低下の原因になることがあります。
- ◎清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。  
ケースが変質したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。  
普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

# 1 ご使用前の準備

## ■付属品の取り付け

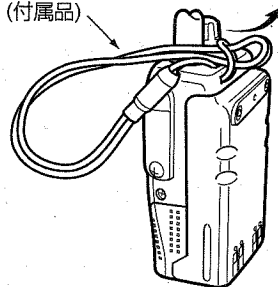
### 【アンテナ】

この部分を持って回します。



### 【ハンドストラップ】

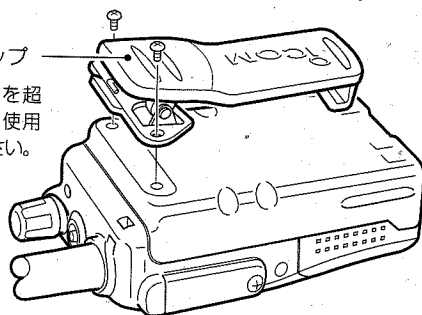
ハンドストラップ  
(付属品)



## ■ベルトクリップの取り付け(別売品：MB-98の場合)

ベルトクリップ

長さが4mmを超えるビスは、使用しないでください。



※ベルトクリップは、タイプ(※P21)によって、使用できるビスの長さが異なります。

取り付けるときは、お使いのベルトクリップに付属するビスより長いものを使用しないでください。

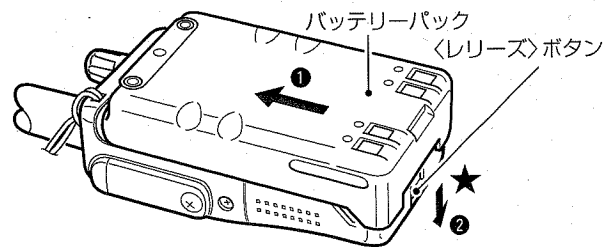
# 1 ご使用前の準備

## ■バッテリーパックの取り付け(別売品)

バッテリーパックを本体に密着させながら、「カチッ」と音がするまで[①]の方向にスライドさせます。

※取り付けたとき、バッテリーパックが無線機底面にある〈リリース〉ボタンでロックされていることを確認します。

★取りはずすときは、〈リリース〉ボタンを[②]の方向に押し下げるとロックがはずれます。



## △警告

本製品やバッテリーパックが濡れたり汚れた状態で、充電しないでください。

本製品やバッテリーパック、または充電器の各端子が錆びたりして、故障の原因になります。

※充電方法については、6章(※P25～P28)をご覧ください。

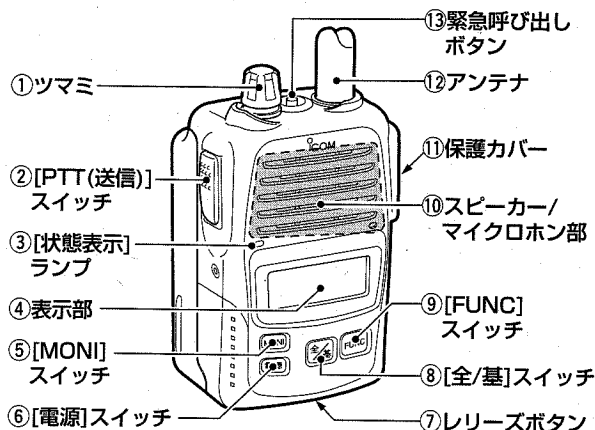
## △注意

バッテリーパックを取りはずすときは、次のことを守らないと、指や爪を傷めるおそれがあります。

バッテリーパックを取りはずすとき、〈リリース〉ボタンの操作は、バッテリーパックを[①]の方向に軽く押し込んで、〈リリース〉ボタンが軽く動く状態になってから、[②]の方向に操作してください。

## 2 各部の名称と機能

### ■前面部



#### ① ツマミ

ツマミを回すと、音量(00～32)が調整できます。

※個別呼び出し機能が設定されている場合は、[FUNC]スイッチや[全/基]スイッチを操作して表示された内容がツマミで切り替わります。

(※P7～P10)

#### ② [PTT(送信)]スイッチ

押すと送信状態、はなすと受信状態に切り替わります。

#### ③ [状態表示]ランプ

交信の状態を示します。

- 送信：赤色(点灯)
- 受信：緑色(点灯)
- 着信：橙色(点滅)

[電源]スイッチ、[PTT(送信)]スイッチ、〈緊急呼び出し〉ボタン以外の操作をしたとき、表示部の照明が約5秒間点灯します。

## 各部の名称と機能 2

#### ④ 表示部(※P5)

運用状態を表示します。

#### ⑤ [MONI]スイッチ

モニター機能が設定されている場合、押すごとに、「ON」/「OFF」できます。

※通常は使用しませんが、他局が呼び出し機能で交信するのを受信したり、交信相手局の信号が弱かったり、途切れたりして聞こえにくいつきや、ノイズを聞きながら音量調整するときは、「ON」にします。

#### ⑥ [電源]スイッチ

長く押すごとに、電源を「ON」/「OFF」できます。

#### ⑦ 〈リリース〉ボタン

バッテリーパック(別売品)の取り付けや取りはずしをします。

#### ⑧ [全/基]スイッチ

押すごとに、[全体]→[基地]→[個別]の順番に呼び出せる局を切り替えます。

※呼び出し機能が設定されていない場合やデジタルトーンスケルチが設定されている場合は、スイッチ操作は無効になります。

#### ⑨ [FUNC]スイッチ

短く押すごとに、「通話チャネル番号」→「個別(相手局)番号」→「音量」の順番に表示が切り替わります。

※長く押すごとに、**ロック機能**を「ON」/「OFF」できます。

★個別呼び出し機能が設定されていない場合、「個別(相手局)番号」は、表示しません。

#### ⑩ スピーカー/マイクロホン部

超小型のスピーカーとマイクロホンを内蔵しています。別売品のスピーカーマイクやヘッドセットなどを接続するときは、機能しません。

#### ⑪ 保護カバー

別売品のスピーカーマイクやヘッドセットなどを接続するコネクタを保護します。

保護カバー(※P32)をはずすと、接続できます。

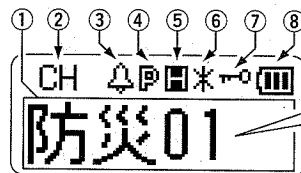
#### ⑫ アンテナ

電波を発射、または受信する部分です。

#### ⑬ 〈緊急呼び出し〉ボタン

緊急呼び出し(※P15)をします。

## ■表示部



●音量  
音量 20  
●スケルチレベル  
SQL 12

① [相手局番号/設定内容]表示  
音量(0~32)やスケルチレベル(00~64)を表示します。

※設定により、通話チャンネル番号、個別(相手局)番号を表示します。

※通話チャンネル番号表示の代わりとして設定されている漢字(例：防災01)やアルファベットを表示します。  
また、呼び出し「個別番号(個別)/基地局番号(基地)/全体呼び出し(全体)」の選択状態を表示します。

② [CH]表示

通話チャンネルが漢字やアルファベット表示(①の部分)に設定されているとき表示します。

③ △(ベル)

個別呼び出し(着信)を受けたとき点滅します。

④ △(つづき)

ポケットビーブ機能(※P12)が設定されているとき表示します。

⑤ P(Pベル機能)

[ON](※P19)に設定したとき表示します。

⑥ □/■/□(送信出力)

各通話チャンネルのパワー設定(High/Low/受信専用)を表示します。

⑦ ☆(コンバンダ機能)

設定されているとき表示します。

⑧ 🔒(ロック機能)

[ON]に設定(※P15)したとき表示します。

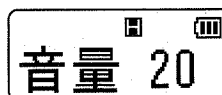
⑨ 🔋(電池残量)

4段階で表示します。(※P22)

## 1 電源を入れる

[電源]スイッチを長く(0.5秒以上)押します。

もう一度、[電源]スイッチを長く押すと、電源が切れます。

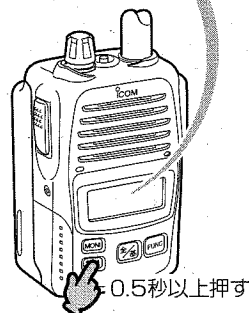


電源を入れると、ビーブ音が「ピー」と鳴って、「音量」の調整値(例：音量 20)を表示します。

※個別呼び出し機能が設定されている場合は、**自局番号**表示(約1秒間)します。

自局 01

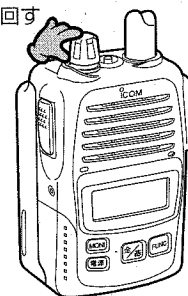
例：自局番号表示



## 2 音量を調整する

相手局の音声が大きすぎたり、小さすぎるときは、「音量」を表示した状態で、[ツマミ]を回して聞きやすい音量に調整します。

モニター機能が設定されている場合、何も音が出ていない状態での調整は、[MONI]スイッチを押して「ザー」という雑音を出してから、この音を聞いて調整します。調整後は、再度、[MONI]スイッチを押します。



## 3 相手局を選択する

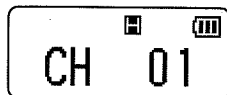
個別呼び出し機能で相手局を呼び出すときは、あらかじめ[通話チャンネル番号]と[個別(相手局)番号]を選択します。

## Step1.通話チャンネル番号の選択

通話チャンネル番号とは、交信する周波数のことです。  
交信する全局は、同一チャンネルに設定します。

## ▶「音量」表示から選択する場合

- ① [FUNC]スイッチを短く押します。

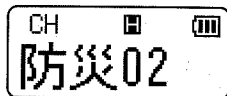


[通話チャンネル番号]表示

- ② [ツマミ]を回します。



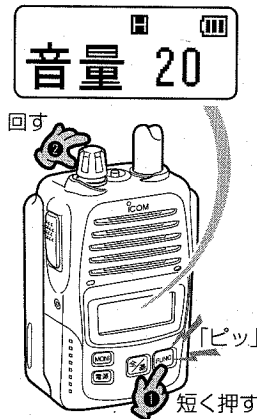
2チャンネルを選択時



例：漢字表示

※操作の途中で、5秒以上何もしない状態がつづく、「音量」表示に戻ります。

戻ったときは、はじめから操作をしてください。

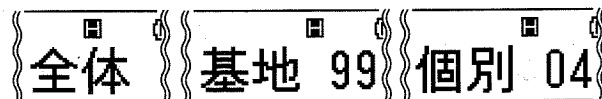


## 3 相手局を選択する(つづき)

Step1.通話チャンネル番号の選択(つづき)

## ▶「全体」/「基地」/「個別」表示から選択する場合

下記の表示(※P9)から通話チャンネル番号を選択する操作です。

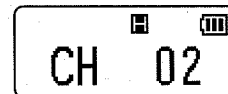


- ① [FUNC]スイッチを短く2回つづけて押します。

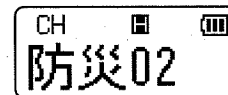


[通話チャンネル番号]表示

- ② [ツマミ]を回します。

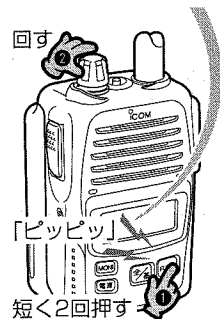


2チャンネルを選択時



例：漢字表示

※操作の途中で、「音量」表示に戻ったときは、「音量」表示からの選択(※P7)の手順で操作してください。



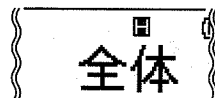
## 3 相手局を選択する(つづき)

## Step2.「全体」/「基地局番号」/「個別番号」表示の選択

## 〈相手局番号の表示について〉

次の5種類があり、呼び出す相手を指定(個別呼び出し機能を使用)するときの番号を表示します。

全体呼び出し(全体)→→→→→→→→  
一斉に全局を呼び出す。



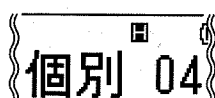
## 基地局呼び出し

(出荷時の設定：基地 99)→→→→→→→→  
「00」～「99」のうち基地局に指定された1局を呼び出す。



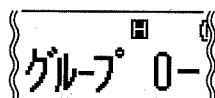
## 個別呼び出し

(出荷時の設定：個別 00～10)→→→→→→→→  
「00」～「99」のうち選択された1局を呼び出す。



## グループ呼び出し

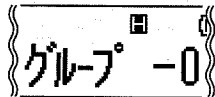
(グループ 0～9 / -0～-9)→→→→→→→→  
グループに所属する局を一斉に呼び出す。  
「グループ 0～」～「グループ 9～」の表示は、最大10局が1グループです。



(0～：00～09の10局)

(9～：90～99の10局)

「グループ -0～」～「グループ -9～」の表示は、最大100局が1グループです。



(-0：000～099の100局)

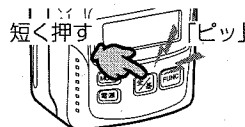
(-9：900～999の100局)

## 3 相手局を選択する(つづき)

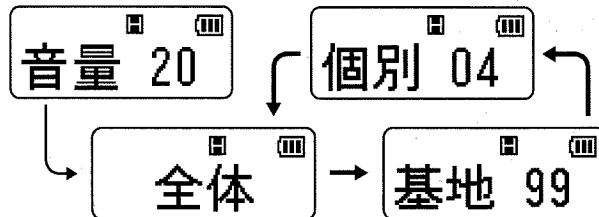
## Step2.「全体」/「基地局番号」/「個別番号」表示の選択(つづき)

[全/基]スイッチを短く押すごとに、[全体呼び出し(全体)]→[基地局呼び出し]→[個別(グループ)呼び出し]の順番に切り替わります。

※「全体」/「基地局番号」表示を選択したときは、「4 呼び出しをする」(P11)の操作に進みます。



## 〈表示の流れ〉

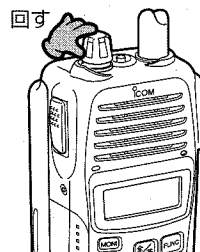


## Step3.「個別番号」の選択

「ツマミ」を回します。

※「全体」/「基地局番号」表示の状態(※Step2.)でも、「ツマミ」を回すと個別番号が選択できます。

※5秒以上何も操作しない状態がつづいたり、「[FUNC]」スイッチを短く押したときは、「音量」表示に戻ります。



## 4 呼び出しをする

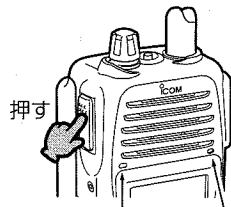
[PTT]スイッチを押すと、[状態表示]ランプが赤色に点灯します。

[PTT]スイッチを押しながら、マイク部に向かって

「こちらは××局です。

〇〇さんどうぞ。」

と呼びかけたら、[PTT]スイッチをはなします。



[状態表示]ランプ マイク部  
が赤色に点灯

## 【ご参考に】

[PTT]スイッチを押したとき、「ピッ」という音が鳴るときは、個別呼び出し機能、またはデジタルトーンスケルチ機能が設定されています。

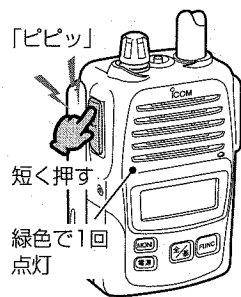
「ピッ」という音が鳴るときは、個別呼び出し機能が設定されていない無線機です。

## ■アンサーバック機能(※37CTMの「3桁設定(呼出コード)」以外に該当)

個別呼び出し機能が設定された無線機は、アンサーバック機能が設定されていると、相手局が通信圏内にあるかどうかを確認できます。

確認するときは、信号を受信していない状態で[PTT]スイッチを短く押します。

相手局が通話圏内の場合、ビーブ音が1回だけ「ピッ」([状態表示]ランプが緑色で1回点灯)と鳴ります。



「ピッ」

短く押す

緑色で1回  
点灯

## 5 呼び出しを受ける

個別呼び出しを受けたときだけ、 $\Delta$ (ベル)表示と相手局の個別番号が点滅します。

その状態で[PTT]スイッチを押しながら、マイク部に向かって

「こちらは〇〇局です。

××さんどうぞ。」

と応答します。

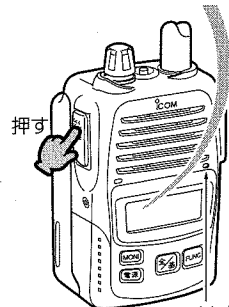


相手局の番号を表示

[PTT]、または[全/基]スイッチを押すと、点滅が停止して[ツマミ]を操作できます。

※「通話 -」表示は、全体/グループ呼び出しを意味します。

また、互いの無線機(CTM仕様)の呼び出しコードの設定が「3桁設定」、または互いの無線機(MFT仕様)にアンサーバック機能(※P11)が設定されていないときも表示されます。



マイク部

## ■ポケットビーブ

$\Delta$ (ベル)が表示されている無線機で動作します。

呼び出しを受けたとき、ビーブ音でお知らせする機能です。

[電源]以外のスイッチを操作すると、停止できます。

※相手局から[全体呼び出し(全体)]、または[グループ呼び出し]を受けたときは、鳴りません。

## ■着信表示

「着信表示」が設定されていると、個別呼び出しを受けたときだけ、[状態表示]ランプを橙色に点滅します。

[MONI]または[全/基]スイッチを押すと、点滅を停止できます。



### 3 交信のしかた

#### 6 交信する

相手局から呼び出しを受けた状態(☞P12)から、送信と受信を交互に繰り返すと、交信できます。

※双方同時に送信しても、交信できません。

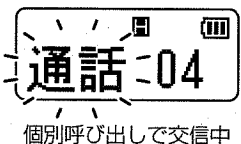
※送信の終わりに『どうぞ』と言葉を添えると、スムーズに交信できます。



交信中は、「通話」表示を点滅します。

再度相手局を呼び出すときは、呼び出しをする前の表示に戻ってから[PTT]スイッチを押します。

※交信(通話表示点滅)中に[FUNC]スイッチを押したときは、音量が変更できます。



#### ■正しい通話方法

次の要領で通話をしてください。

用件は簡潔に話し、長い通話はさけてください。

#### 【呼び出しをするとき】

「相手局の呼び出し名称」：3回以下  
「こちらは」：1回  
「自局の呼び出し名称」：3回以下  
「どうぞ」：1回

#### 【応答をするとき】

3回以下  
1回  
1回  
1回

#### ■交信時のアドバイス

##### 1. マイクロホンの使いかた

●マイクロホンに向かって話すときは、マイクロホンと口元を約5cmはなし、普通に会話する大きさの声で通話してください。マイクロホンを口元に近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、明瞭度が悪くなることがありますのでご注意ください。

●[PTT]スイッチを押すと、「ピッ」、または「ビビッ」という音が鳴ります。

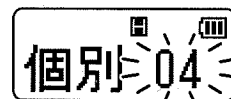
そのあとマイクロホンに向かって話してください。

##### 2. 個別呼び出しについて

個別呼び出しをするときは、[通話チャンネル番号]と[個別番号]を相手局と同じにしないと個別呼び出しできません。

##### 3. 相手局から応答がないときは

相手が無線機からはなれていたり、電波を受信できない場所に移動したなどの理由で応答がないときは、相手局番号の点滅表示が消えてから、[PTT]スイッチを押しなると、何回でも基地局、または個別呼び出しができます。



##### 4. 交信する場所について

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信しにくくなることがあります。

そのときは、場所を少し移動して交信してください。

また、テレビやラジオなどの家電製品や、パソコンおよび電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作することがありますので、はなれてご使用ください。

## ■ ロック機能

不用意に[全/基]スイッチや[FUNC]スイッチ、[ツマミ]にふれても、個別番号や表示が変わらないようにする機能です。

それ以外のスイッチやボタンは、操作できます。

[FUNC]スイッチを長く押すと「ビビビッ」と鳴って、を表示します。

同じ操作をすると、ロック機能を解除できます。

## ■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)

災害発生時など、迅速な操作で確実な連絡が必要な場合、あらかじめ設定された相手に警告音でお知らせします。

※個別呼び出し機能と緊急呼び出し機能の両方が送信側と受信側に設定されていない無線機は、相手局を呼び出しできません。

※あらかじめ設定されたIDと一致する相手局にだけ、緊急呼び出しします。

※緊急呼び出しやその呼び出しを受けているあいだは、[MONI]スイッチ以外は操作できません。

※下記のような環境や本製品の設定状況では、通知できなかったり、通知しても警告音が鳴らない場合があります。

○警告音が音量調整と連動して変化する場合

○警告音を鳴らさない設定がされている場合

○動作中、電池の消耗により自動的に電源が切れた場合

○電波状況の悪化により電波が届かない場合

## △ 警告

緊急呼び出し機能(エマージェンシー)は、大きな音量の警告音が連続で鳴ります。

また、警告音が音量調整と連動しない設定でお買上げの場合、最大音量で警告音が鳴ります。

ヘッドセットやイヤホンで使用する場合は、耳に障害を与える原因になりますので、事前に確認してから運用してください。

## 【呼び出しのしかた】

下記の操作をする前に、相手と同じ[通話チャンネル]が選択(※P7～P8)されていることを確認してください。

①<緊急呼び出し> ボタンを長く 長く押す  
(数秒以上)押します。 (数秒以上)

●警告音が「ビビビ…」と鳴って、一定の間隔ごとに[状態表示]ランプが赤色に点灯します。  
また、「緊急」表示が点滅します。

②その状態で、相手局から応答があるのを待ちます。

●応答があると、警告音が停止して、[状態表示]ランプが緑色に点灯します。

③交信をつづけます。

●終話すると、「緊急」表示の点滅を停止し、緊急呼び出し前の状態に戻ります。



## 【呼び出しを受けたときは】

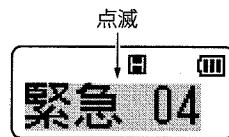
①警告音が「ビビビ…」と鳴って、[状態表示]ランプが赤色に点滅します。  
また、「緊急(相手局番号)」表示が点滅します。

②[PTT(送信)]スイッチを押して、応答します。

●警告音が停止します。

③交信をつづけます。

●終話すると、「緊急(相手局番号)」表示の点滅を停止し、緊急呼び出しを受ける前の状態に戻ります。



## 5 セットモードについて

お好みの運用状況に応じて、次の設定項目を[セットモード]から変更できます。

- ①スケルチレベル(※P18)      ④Pベル機能(※P19)
- ②自局番号(※P18)      ⑤ビーブ(ブザー)音量(※P19)
- ③基地局番号(※P18)

### ■ [セットモード]に移行するには

- ①[電源]スイッチを長く押して、本製品の電源を切ります。
- ②[FUNC]スイッチを押しながら、ビーブ音が「ビッ」と鳴るまで[電源]スイッチを押します。

- ③押している[FUNC]スイッチから指をはなして、[FUNC]スイッチを短く押しなおします。

- ビーブ音が「ビビッ」と鳴って、右のように設定項目の略称を点滅表示します。

SQL=12

セットモードへ移行時

- ④項目の選択は、[全/基]スイッチを短く押すごとに、「スケルチレベル」→「自局番号\*1」→「基地局番号\*1」→「Pベル機能\*1」→「ビーブ(ブザー)音量\*2」の順に切り替わります。

★1.お買上げ時、個別呼び出し機能が設定された無線機で表示される項目です。

★2.お買上げ時、無線機を操作したときのビーブ音量が、音量調整(※P6)に連動しない設定の無線機で表示される項目です。

- ⑤設定内容の変更は、[ツマミ]を回します。

- ⑥設定が終わったら、[電源]スイッチを押して電源を切ります。

- 設定内容を反映して、[セットモード]を解除します。

※[セットモード]が解除されるまで、送信や受信ができませんので、設定後は電源を入れなおして運用できることを確認してください。

## セットモードについて 5

### ■ 設定項目[①～⑤]について

#### ① スケルチレベルの設定

受信する相手局の信号レベルの強弱に応じて、スケルチが動作するレベルを設定します。

- 選択範囲：00(浅い)～64(深い)

※[MONI]スイッチを押すと、出荷時のスケルチレベルに戻ります。

SQL 12

SQL 64

#### 【ご参考に】

スケルチレベルは、検出電圧のわずかな違いが表示に反映されるため、同じ機種の場合でも個体差により出荷時の値が異なります。

#### ② 自局番号の設定(出荷時の設定：01)

ここで設定する番号で個別呼び出しを受けると着信します。

- 選択範囲：00～99

自局 01

自局 99

#### ③ 基地局番号の設定(出荷時の設定：99)

基地局の個別番号を設定します。

基地局呼び出しに使用します。

- 選択範囲：00～99

基地 99

基地 00

## 5 セットモードについて

### ■ 設定項目[①～⑤]について(つづき)

#### ④ Pベル機能の設定(出荷時の設定: OFF)

Pベル機能を設定します。

Pベル機能を使用すると、呼び出し(全体/個別/グループ)を受けたとき、応答するまで相手の音声をミュート(聞こえないように)します。

P BL OFF

P BL ON

- ON : 応答するまで相手の音声をミュートする

※無線機の表示部には、を表示します。

※お買上げ時、ブザー出力が「ON」に設定されている無線機は、音声のミュートと同時に、呼び出しを受けたことをブザー(ピー音、3回)でお知らせします。ポケットビープ(P12)が設定されている無線機は、このブザーあと、つづけて鳴ります。

また、ブザー出力が「OFF」に設定されている無線機は、ポケットビープも鳴りません。

- OFF : 着信と同時に、相手の音声聞こえる

#### ⑤ ビープ(ブザー)音量の設定(出荷時の設定: 20)

受信音量調整(P6)と連動しないように設定された無線機だけに表示される設定項目で、Pベルのブザー、ポケットビープ(P12)、無線機を操作したときのビープについて、音量を設定します。

- 選択範囲: 00～32

BEEP 20

BEEP 32

## 別売品とその使いかた 6

### ■ 別売品一覧表

【★】印のものは、無線機本体に装着することで、JIS保護等級7(防浸形)保証の防水性能に適合します。

#### バッテリー関係

- BP-220L\* : リチウムイオンバッテリーバックL
- BP-220N\* : リチウムイオンバッテリーバックL
- BP-233\* : リチウムイオンバッテリーバックL
- BP-246\* : リチウムイオンバッテリーバックM
- BP-221 : アルカリ電池ケース(単3形アルカリ電池×5本)

#### 充電する

- BC-161 : 卓上急速充電器
- BC-165 : ACアダプター(BC-161用の電源)
- BC-121NA : 6連急速充電器(BC-157/OPC-656別売)
- BC-157 : ACアダプター(BC-121NA用)
- OPC-656 : DC電源ケーブル(BC-121NA用)

#### スピーカー・マイク関係

- EM-80 : スピーカー・マイク
- HM-130\* : 防水形スピーカー・マイク
- HM-139 : 小型スピーカー・マイク  
※HM-139S : HM-139のショートケーブル仕様
- HM-172\* : 防水形スピーカー・マイク

#### スピーカー関係

- EH-11 : イヤーパッド型スピーカー(プラグ: 2.5φ)
- EH-12 : ヘルメット取り付け型スピーカー(プラグ: 2.5φ)

#### 無線機を保護する

- LC-153 : ハードケースS(BP-246用)  
※LC-164 : 装着した状態でスイッチ操作と充電が可能
- LC-154 : ハードケースL(BP-220L/220N/221/233用)  
※LC-166 : 装着した状態でスイッチ操作と充電が可能

## 6 別売品とその使いかた

### ■ 別売品一覧表(つづき)

#### マイクロホン/ヘッドセット関係

- HM-104 : 単一指向性タイピン型マイクロホン
- HM-104A : 無指向性タイピン型マイクロホン
- HM-109 : 接話タイピン型マイクロホン  
※HM-163 : HM-109のコネクター部分だけが防水仕様
- HM-147 : 骨伝導マイク(TEMCO製)
- HS-86 : ヘルメット取り付け型ヘッドセット
- HS-88 : ヘッドセット
- HS-92 : ヘルメット取り付け型ヘッドセット(ワニ口で固定)
- OPC-636 : マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル(ロック仕様)  
※OPC-637 : OPC-636のスイッチがアンロック仕様

#### イヤホン関係

- EH-13 : 耳掛け型イヤホン(プラグ: 2.5φ)
- EH-14 : オープンエアー型イヤホン(プラグ: 2.5φ)
- EH-15 : イヤホン(プラグ: 2.5φ)
- SP-16 : 耳掛け型イヤホン(プラグ: 3.5φ、AD-52用)

#### 腰にかける

- MB-98 : ベルトクリップ
- MB-86 : 回転式ベルトクリップ
- MB-97 : ベルトクリップ\*(ステンレス製)  
※挟む力は、「標準」か「強力」をご指定ください。

#### 肩にかける

- MB-57L : ショルダーストラップ(LC-153/154/164/166用)
- MB-80 : ショルダーストラップ  
(BP-220L/220N/221/233/246用)

#### 変換アダプター/アンテナ関係

- AD-52 : イヤホンジャックアダプター(ジャック: 3.5φ)
- FA-S73U\* : IC-UH37CTM用防水形短縮アンテナ

## 別売品とその使いかた 6

### ■ 安全な充電のために

#### △危険

- 充電器は、必ず弊社指定の別売品をご使用ください。
- 指定(BP-220L/220N/233/246)以外のバッテリーパックは、絶対に充電しないでください。
- 「安全上のご注意」(※Pix~xviii)を併せてお読みになり、安全な方法で充電してください。

### ■ 電池の残量表示について

表示部のは、バッテリーパック(BP-220L/220N/233/246)、アルカリ電池ケース(BP-221)の残量を表示します。  
※交換時期になりましたら、バッテリーパックの場合は、充電し、電池の場合は、新しいアルカリ電池と交換してください。

| 表示                                                                                | [バッテリーパック]/[アルカリ電池ケース]の状態    |
|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
|  | 十分に容量があります。                  |
|  | 電池を交換する時期です。(短時間の運用は可能)      |
|  | すぐに使えなくなりますので、電池の交換が必要です。    |
|  | ほとんど容量がなく、30秒ごとに警告音でお知らせします。 |

### ■ 電池の残量警告音について

残量が表示になると、残量警告音が「ピーピーピー」と、約30秒おきに繰り返し鳴ります。  
警告音が鳴り出したらすぐに充電してください。  
また、アルカリ電池ケースの場合は、BP-221に付属の取扱説明書を参考に、新しいアルカリ電池と入れ替えてください。  
※表示の状態でご使用をつづけられますと、残量警告音が「ピーピーピー…」と鳴り、5秒後に無線機の電源が自動的に切れます。

## ■ バッテリーパックの定格について(別売品)

| 名称<br>定格項目      |                                | BP-220N    | BP-220L | BP-233  | BP-246     |
|-----------------|--------------------------------|------------|---------|---------|------------|
| 電池の種類           |                                | リチウムイオン    |         |         |            |
| 電池の容量           |                                | 2800mAh    |         | 1800mAh | 1700mAh    |
| 出力電圧            |                                | 7.4V       |         |         | 7.2V       |
| 寸法<br>(幅×高さ×奥行) | 56×91×21.9                     | 56×91×21.3 |         |         | 56×91×15.2 |
|                 | <条件>突起物は含まず/<単位> mm            |            |         |         |            |
| 運用時間            | 1W機                            | 約24時間      |         | 約15時間   | 約14時間      |
|                 | 5W機                            | 約16時間      |         | 約10時間   | 約9時間       |
|                 | <条件>送信5、受信5、待ち受け90の割合で、繰り返し運用  |            |         |         |            |
| 充電時間            | 約4.0時間                         | 約3.5時間     |         | 約2.5時間  |            |
|                 | <条件>BC-161、またはBC-121NAを充電器に使用時 |            |         |         |            |

※BP-220L/220N/233/246は、完全防水構造ではありません。  
無線機に装着することで、無線機本体の防水性能に適合します。  
※バッテリーパックが異常と思われるときは、使用を中止して、  
お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

## ■ 急速充電器の定格について(別売品)

- 名称: BC-161卓上急速充電器(AD-112付属)
- 定格入力電圧: AC100V(50/60Hz) ※BC-165入力電圧
- 使用温度範囲: 0℃～+40℃
- 保存温度範囲: -10℃～+70℃
- 重量: 約225g
- 寸法: 122.5(W)×59.7(H)×95(D)mm

※定格・仕様・外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。

※BC-121NAについては、BC-121NAに付属の取扱説明書をご覧ください。

## ■ 正しい充電のために

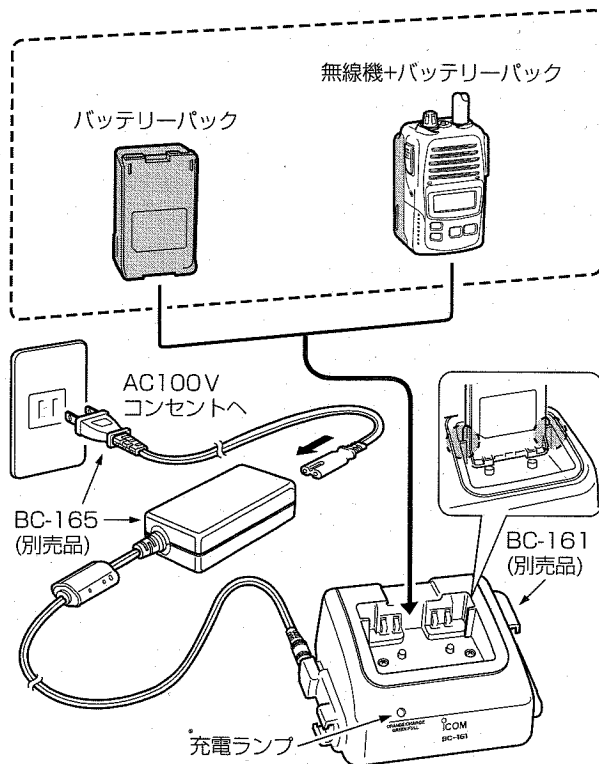
バッテリーパックを無線機本体に装着した状態で充電するとき  
は、必ず無線機の電源を切ってください。

電源を切らない場合、充電が完了しません。

- お買い上げいただいたときや、約2ヵ月以上充電しなかったときは必ず充電してください。
- バッテリーパックは、使い切らずに継ぎ足し充電ができますので、常に満充電にしてご使用ください。  
なお、満充電した直後に再充電しないでください。
- 満充電、または完全に使い切った状態で長期間放置すると、バッテリーパックの寿命が短くなるおそれがあります。  
長期間バッテリーパックを保管する場合は、満充電のあと、バッテリー残量が中レベルを表示するまで使用して、無線機から取りはずした状態で保管してください。
- 極端に高温、または低温の環境下や、バッテリーパックと充電器の温度差が大きい場合、充電できないことがあります。  
充電器は、次の環境でご使用ください。  
BC-161(卓上急速充電器) : 0℃～+40℃  
BC-121NA(6連急速充電器) : +10℃～+40℃
- バッテリーパックの寿命(充電回数)は、使用する頻度(ひんど)によりますが、約300回です。  
指定時間充電しても、数分後に表示部の残量表示が変化する(運用時間が極端に短い)ときは交換時期です。
- 充電口や充電端子各部にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがあるので、ときどきお手入れしてください。

■BC-161(卓上急速充電器)：充電のしかた  
バッテリーパックを単体、または無線機に装着した状態で急速充電できます。

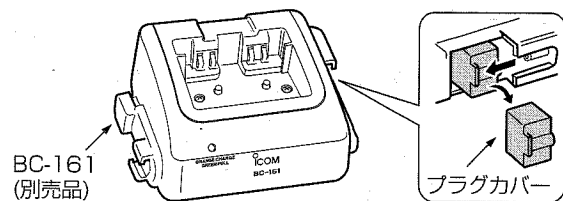
充電ランプは、充電中に橙色、充電完了で緑色に点灯します。  
※赤点滅する場合は、45ページをご参照ください。



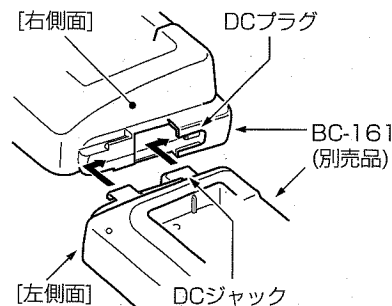
■BC-161の連結充電について

充電器を最大4台まで連結して、同時に充電できます。

- ①充電器の右側面に差し込まれているDCプラグカバーを図の方向に取りはずします。



- ②右側面にあるDCプラグと、もう1台のBC-161(左側面)にあるDCジャックを「カチッ」と音がするまで差し込みます。  
(手順③を次ページへ)

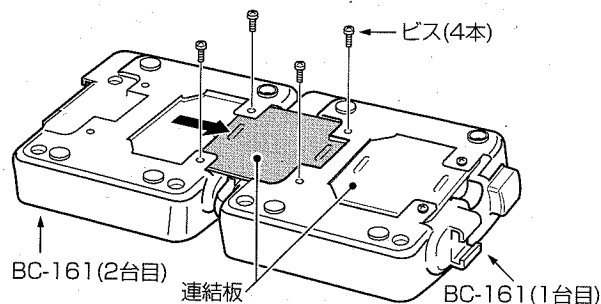


△警告

充電器は、5台以上連結して充電しないでください。  
火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。  
※連結して充電できるのは、最大4台までです。

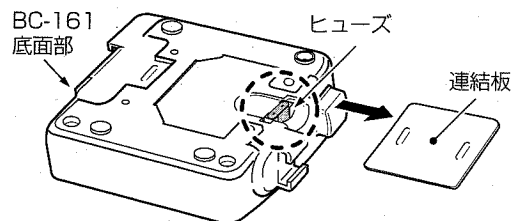
## ■BC-161の連結充電について(つづき)

- ③ 底面部(2台目の充電器)にある連結板を固定するビス(2本)を取りはずして、連結板を1台目の充電器の方に移動させます。  
取りはずしたビス(2本)と充電器に付属のビス(2本)で連結板を固定します。



## ■BC-161のヒューズ交換について

ヒューズが切れ、充電ランプが点灯しないときは、原因を取り除いてから、下記のヒューズ(4A/32V)を取り替えてください。



## ■BC-121NA(6連急速充電器)：充電のしかた

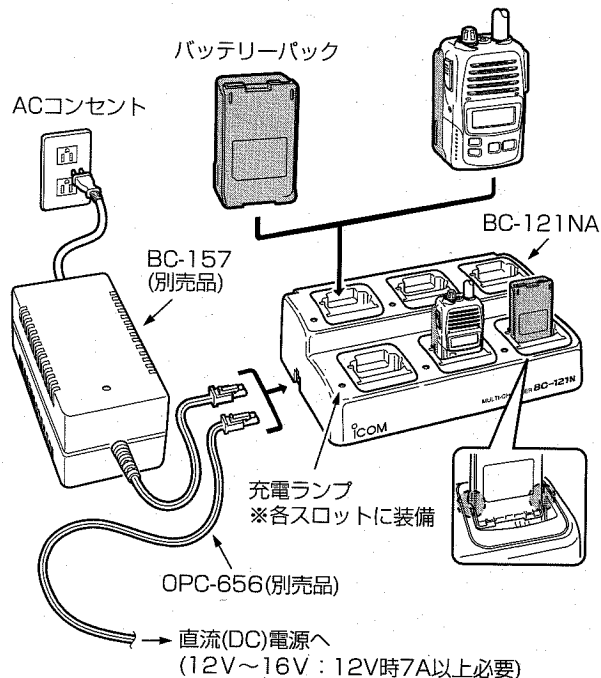
バッテリーパック単体、または無線機に装着した状態で急速充電できます。

充電ランプは、充電中は橙色、充電完了で緑色に点灯します。

※赤色に点滅する場合は、45ページをご参照ください。

※BC-121NAに付属の取扱説明書と併せてご覧ください。

無線機+バッテリーパック

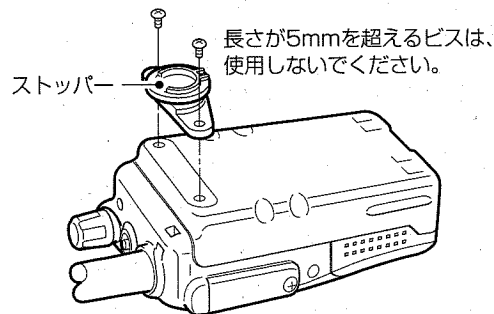




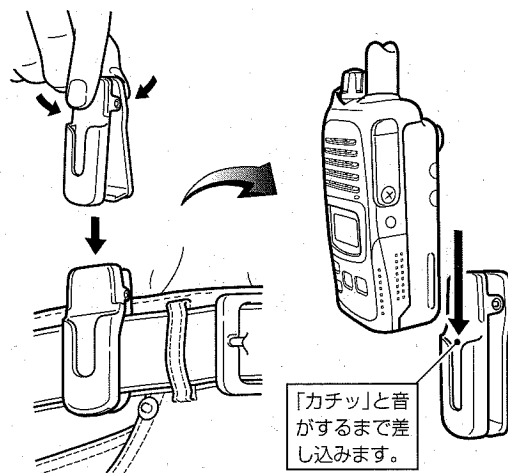
## 6 別売品とその使いかた

### ■MB-86(回転式ベルトクリップ)

〈組み立てかた〉



〈無線機の取り付けかた〉



## 別売品とその使いかた 6

### ■MB-86(回転式ベルトクリップ)つづき

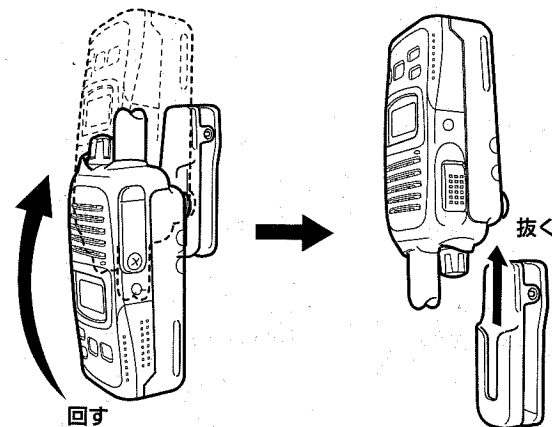
〈無線機のはずしかた〉

ベルトクリップから無線機をはずすときは、無線機を回転させてから引き抜きます。

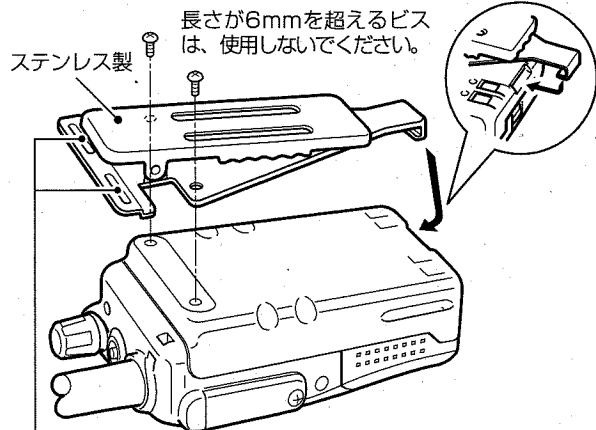
#### △注意

ストッパーの破損にご注意ください。

落としたり、強い衝撃が加わってストッパー部分を破損すると、ベルトクリップが正常に機能しないおそれがあります。



■ MB-97(ベルトクリップ)



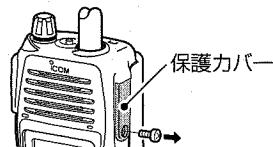
MB-57L(ショルダーストラップ)やMB-80のストラップ部を取り付けできます。

△ 注意

腰などに固定するときは、指を挟まないようご注意ください。

■ 別売品を接続するには

端子保護のため、必要がないときは、保護カバーを取り付けてご使用ください。

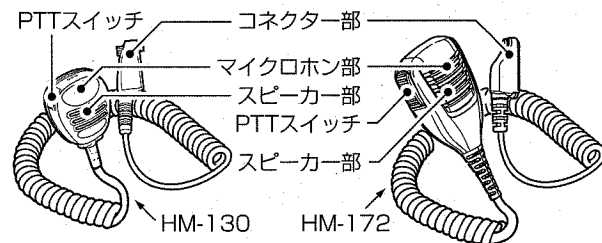


- ①市販のドライバーを用意します。
- ②無線機の側面側にある保護カバー固定用のビス(1本)はずします。
- ③保護カバーをはずします。

■ HM-130/HM-172\*(防水形スピーカーマイク)

JIS保護等級7(防浸形)保証の防水性能があります。

★HM-172をご使用いただくには、外部電源制御の設定をお願いの販売店にご依頼ください。



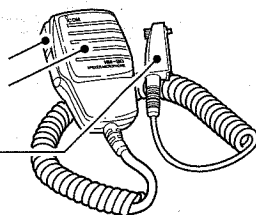
■ EM-80(スピーカーマイク)

[PTT]スイッチ

マイクロホン/

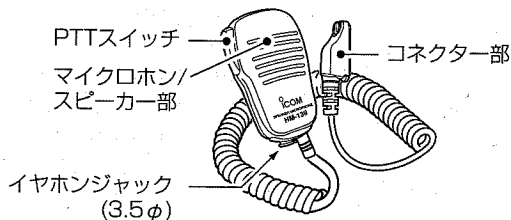
スピーカー部

コネクター部



# ■ HM-139/HM-139S(小型スピーカーマイク)

※HM-139Sのケーブルは、無線機を肩に固定して、マイクを胸ポケットに入れてご使用いただける長さです。

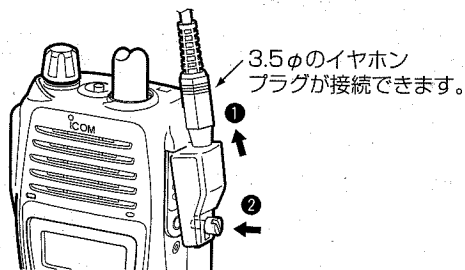


# ■ AD-52(イヤホンジャックアダプター)

別売品のSP-16と組み合わせてご使用になれます。

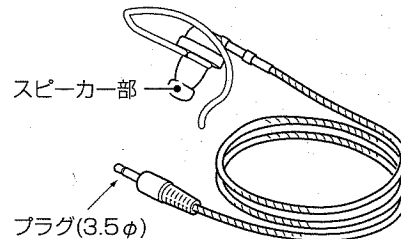
また、市販品のイヤホン(プラグ: 3.5φ)と組み合わせてご使用になれます。

※装着しても、イヤホンプラグが接続されるまでは、無線機内蔵のスピーカーが機能します。



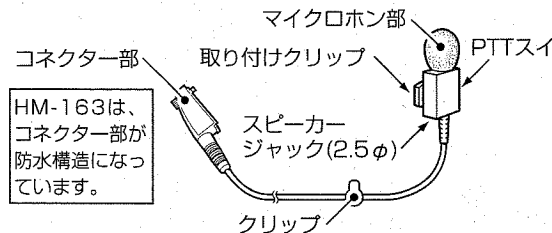
# ■ SP-16(耳掛け型イヤホン)

別売品のAD-52と組み合わせてご使用になれます。  
どちらの耳にも使用できます。



# ■ HM-109/HM-163(接話タイピン型マイクロホン)

別売品のEH-12、EH-13、EH-14、EH-15と組み合わせてご使用になれます。

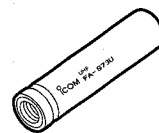


# ■ FA-S73U(IC-UH37CTM用防水形短縮アンテナ)

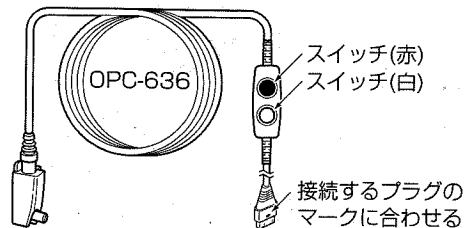
無線機に取り付けることで、無線機本体の防水性能に適合します。

◎外形寸法 : φ12.5×50[mm]

◎使用周波数: 467MHz帯



■ OPC-636/OPC-637(マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル)  
別売品のHS-86、HS-88、HS-92、HM-104、HM-104Aを  
接続してご使用になれます。



#### 〈OPC-636の場合〉

赤色のスイッチは、アンロック(未固定)式です。

※白色のスイッチが出ている(出)とき使用できます。

-  : 押しているあいだけ送話する
-  : はなすと送話を中断する

白色のスイッチは、ロック(固定)式です。

※赤色のスイッチは、白色のスイッチが押し込まれていると無効です。

-  : 押し込む(入)と送話する
-  : 出ている(出)と送話を一時中断する

#### 〈OPC-637の場合〉

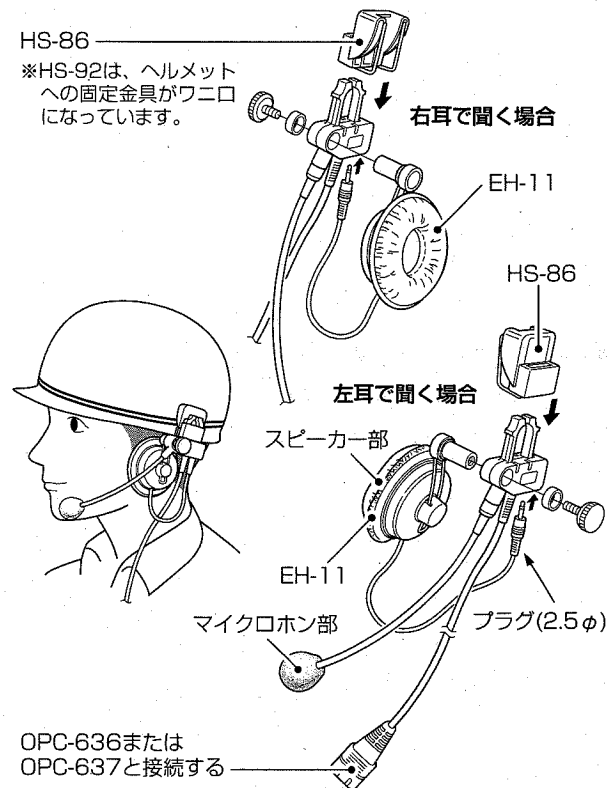
黒色のスイッチは、アンロック(未固定)式です。

-  : 押しているあいだけ送話する
-  : はなすと送話を中断する

■ HS-86/HS-92(ヘルメット取り付け型ヘッドセット)  
とEH-11(イヤープアット型スピーカー)の組み立て  
別売品のOPC-636、OPC-637および、EH-11、EH-12、  
EH-13、EH-14、EH-15と組み合わせてご使用になれます。

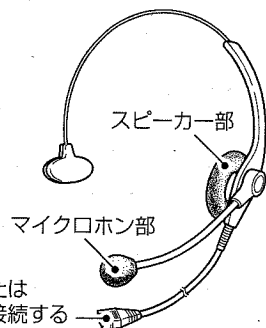
HS-86

※HS-92は、ヘルメット  
への固定金具がワニ口  
になっています。



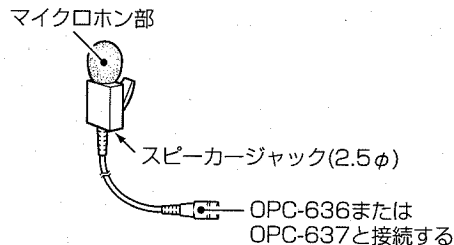
■HS-88(ヘッドセット)

別売品のOPC-636、OPC-637に接続してご使用になれます。



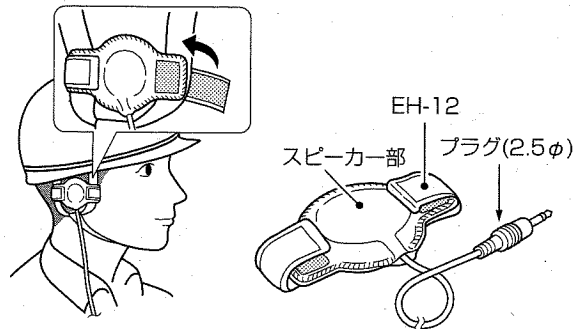
■HM-104/HM-104A(単一指向性/無指向性タイピン型マイクロホン)

別売品のOPC-636、OPC-637に接続してご使用になれます。  
スピーカージャックには、別売品のEH-12、EH-13、EH-14、EH-15が必要です。



■EH-12(ヘルメット取り付け型スピーカー)

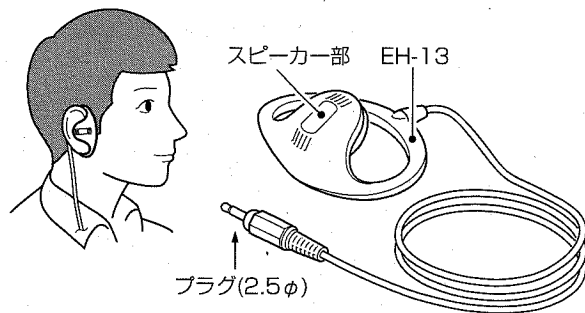
別売品のHS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163と組み合わせてご使用になれます。



■EH-13(耳掛け型イヤホン)

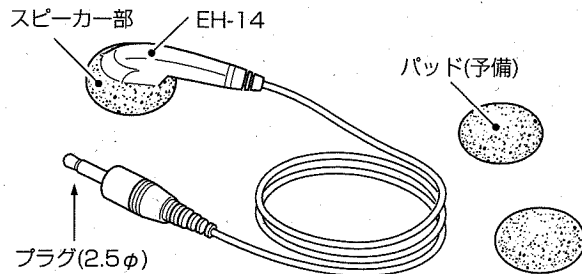
別売品のHS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163と組み合わせてご使用になれます。

※どちらの耳にも使用できます。



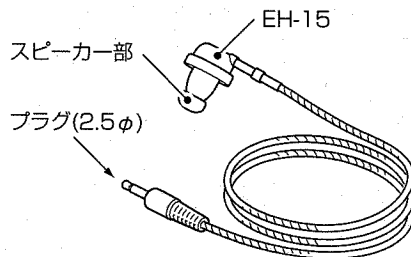
# ■EH-14(オープンエア型イヤホン)

別売品のHS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163と組み合わせてご使用になれます。



# ■EH-15(イヤホン)

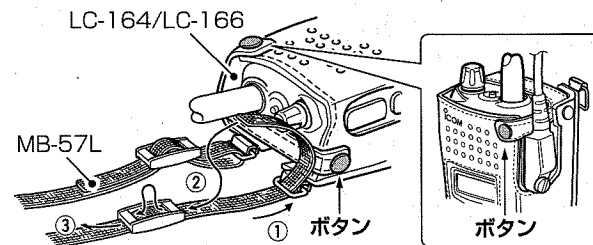
別売品のHS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163と組み合わせてご使用になれます。



# ■MB-57L(ショルダーストラップ)の取り付け

図(①~③)の順に取り付けます。

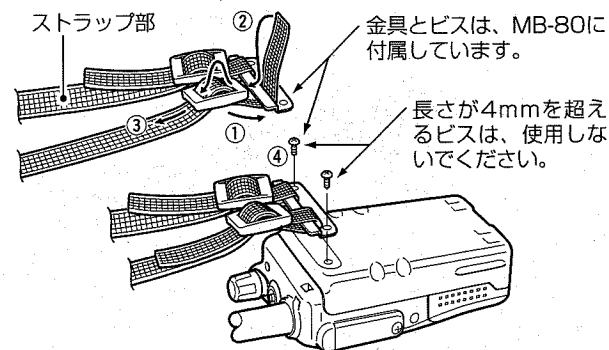
別売品のLC-153、LC-154、LC-164、LC-166と組み合わせてご使用になれます。



# ■MB-80(ショルダーストラップ)の取り付け

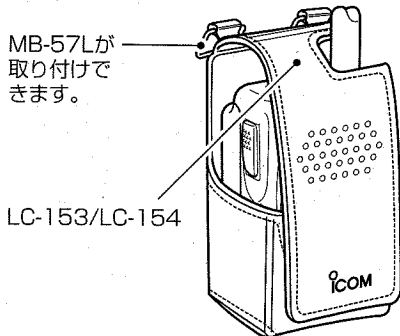
図(①~④)の順に取り付けます。

ストラップ部(MB-57L)は、別売品のLC-153、LC-154、LC-164、LC-166と組み合わせてご使用になれます。



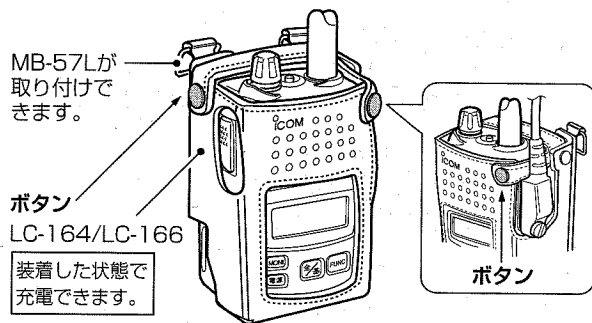
■LC-153/LC-154(ハードケースS/ハードケースL)

別売品のBP-246にはLC-153、別売品のBP-220L/220N/221/233にはLC-154と組み合わせてご使用になれます。



■LC-164/LC-166(ハードケースS/ハードケースL)

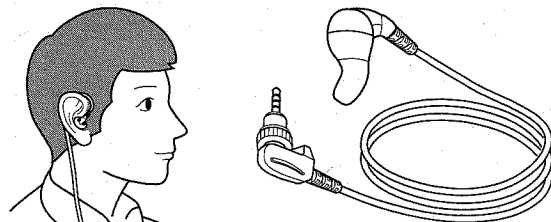
別売品のBP-246にはLC-164、別売品のBP-220L/220N/221/233にはLC-166と組み合わせてご使用になれます。



■HM-147(骨伝導マイク)

ご使用になるには、外部電源制御の設定をお買い上げの販売店にご依頼ください。

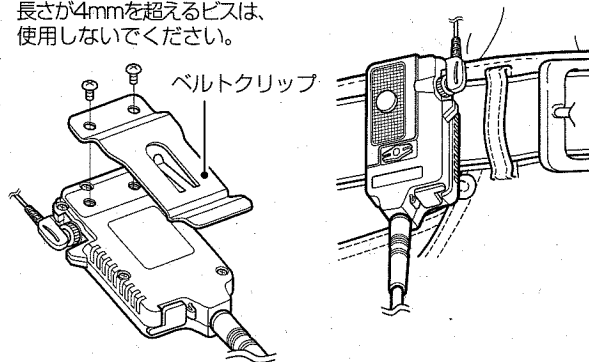
使いかたは、HM-147に付属の取扱説明書をご覧ください。



[ボイスデューサー イヤーマイクレシーバー]

〈ベルトクリップの取り付け〉

長さが4mmを超えるビスは、使用しないでください。



[ボイスデューサー インターフェイス]

## ■ 日常の保守と点検について

- ふだんのお手入れは、乾いたやわらかい布をご使用ください。汚れのひどいときは、水でうすめた中性洗剤を少し含ませてふいてください。
- また、バッテリーパック(BP-220L/220N/BP-233/BP-246)やアルカリ電池ケース(BP-221)を取りはずした状態では、乾いたやわらかい布でふいてください。
- シンナーやベンジンなどは、絶対に使用しないでください。
- 無線機本体、バッテリーパック、充電器(BC-161、BC-121NA)、アルカリ電池ケースの各端子(充電端子や電源端子)にゴミやホコリが付着すると、接触不良が原因で正常に動作しないことがあります。
- 各端子は、乾いた布などで定期的にお手入れしてください。
- 使用される前に、電池の容量が十分残っているか、表示部の残量表示を確認してください。
- また、アルカリ電池ケース、またはバッテリーパック等がしっかりと装着されているか点検してください。
- 定期的に決まった位置の相手局と通話して、交信状態に変化がないかを調べてください。
- 音量が最小に調整されていないか、表示部の音量表示を確認してください。

## ■ 防水性能維持の定期点検と保守について

本製品は、JIS保護等級7(防浸形)を保証(ご購入より1年間)している無線機です。

この防水性能を維持するためにも、定期点検(年1回)の実施をおすすめします。

また、防水保証の延長なども含んだ保守サービス(有料)を準備しております。

定期点検や保守サービスの詳細については、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先については、別紙の「サービス受付窓口一覧」をご覧ください。

## ■ 故障かな？と思ったら

下記のような症状は、故障ではないことがありますので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

### 〈現象〉[電源]スイッチを押しても電源が入らない

〈原因1〉電池をアルカリ電池ケース(BP-221)に入れるとき、極性を間違えている

対処：極性を確認して、アルカリ電池を入れなおす

〈原因2〉バッテリーパック(BP-220L/220N/BP-233/BP-246)、またはアルカリ電池ケースの接触不良

対処：アルカリ電池ケースの電池端子またはバッテリーパックの充電端子を清掃する

〈原因3〉バッテリーパック、またはアルカリ電池の消耗

対処：バッテリーパックの場合は充電し、電池の場合は新しいアルカリ電池と交換する

〈原因4〉バッテリーパックの場合、過放電保護回路が動作している

対処：無線機からバッテリーパックを取りはずし、少し充電したあとにバッテリーパックをもう一度装着してから電源を入れる



## ■ 故障かな?と思ったら(つづき)

## 〈現象〉表示部の表示が変化しない

〈原因〉ロック機能が動作している

対処: ロック機能を解除する(※P15)

## 〈現象〉スピーカーやイヤホンから音が聞こえない

〈原因〉音量が最小に調整されている

対処: 無線機本体の「音量」を確認する(※P6)

## 〈現象〉充電中に充電器のランプが赤色点滅になる

〈原因〉無線機の電源を入れた状態で充電している

対処: 無線機の電源を切った状態で充電する

※症状が変わらない場合は、バッテリーパックの故障または寿命ですので、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

## 〈現象〉充電が完了(充電器のランプが緑色に点灯)しない

〈原因〉無線機の電源を入れた状態で充電している

対処: 無線機の電源を切った状態で充電する

## 〈現象〉交信できない(応答がない)

〈原因1〉相手局と距離がはなれすぎている

対処: 場所を移動してから交信してみる

〈原因2〉相手局が不在、または電源を切っている

対処: 相手局の状態を確認する

〈原因3〉相手局と[通話チャンネル]が合っていない

対処: 相手局と同じにする、さらに個別呼び出し機能でご利用の場合は、相手局の個別番号を選択する

## ■ 故障のときは

## ● 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

## ● 修理を依頼されるとき

「■ 故障かな?と思ったら」(※P44~P45)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

## 保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

## 保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

## ● 弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

## お問い合わせ先

アイコム株式会社 サポートセンター

06-6792-4949(平日 9:00~12:00、13:00~17:00)

電子メール: support\_center@icom.co.jp

アイコムホームページ: <http://www.icom.co.jp/>

弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」をご覧ください。

